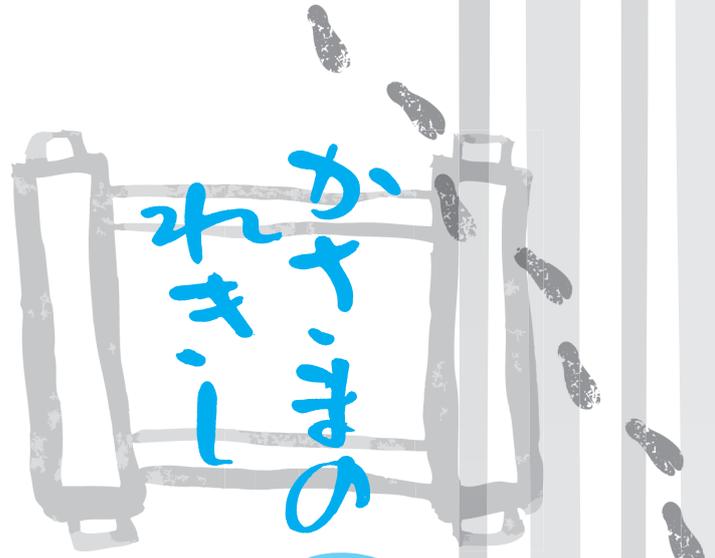




筑波海軍航空隊司令部庁舎



No.51

筑波海軍航空隊跡 神風特攻で七三名散華

笠間市旭町地内にある県立こころの医療センターは、戦前、筑波海軍航空隊のあったところ。昭和九年（一九三四）八月、霞ヶ浦海軍航空隊友部分遣隊として設置され、戦闘機の搭乗員養成の基地でした。二式初練や九三式陸上中間練習機（赤トンボ）での飛行訓練が行われていました。同十一年からは、若い予科練習生が入隊し、猛訓練が続きました。

昭和十二年七月、日中戦争が勃発すると、航空機の重要性が高まり、分遣隊から独立して筑波海軍航空隊になりました。この時、司令部庁舎が建築されました。

昭和十六年十二月、太平洋戦争が始まると訓練も激しさを増していきました。「鬼の筑波か地獄の谷田部」と言われるほどの猛訓練でした。訓練は、一期五〇名で六カ月、教官一名が二、四名を指導しました。訓練を修了した兵士は激戦地に派遣され、その多くが東南アジア各地で戦死しました。

昭和十九年三月から、零戦配備の実践部隊となりました。同年秋には、フィリピン戦に神風特別攻撃戦法が採られ、筑波海軍航空隊からも二五名が特攻要員に選ばれ、一三名がフィリピンの海に散華しました。

昭和二十年になると、戦局は激しさを増し、二月には神風特別攻撃筑波隊が組織され、特攻

訓練の命令が出されました。六四名の特攻要員が選ばれ（後に八四名）、急降下などの訓練が行われました。

筑波隊は、鹿児島県鹿屋基地に進出し、四月六日に、第一筑波隊一七名が沖縄近海に特攻をかけました。六月二十二日まで六〇名が散華しました。その大半は、大学を繰り上げ卒業して海軍に応募した飛行予備学生でした。

昭和から平成の世になって、かつての筑波海軍航空隊員、遺族の間から慰霊碑建立の声が上ががり、「筑波海軍航空隊ここにありき」碑が建立されました。平成十一年（一九九九）六月三日に除幕式が挙行され、一五〇名が参列しました。慰霊碑には、「万感の愛惜をこめてその鎮魂を祈り且は恒久の平和を念じてこの碑を建てる」と記されています。

なお、筑波海軍航空隊司令部庁舎は、平成三十年（二〇一八）十二月、笠間市の文化財に指定されました。

（市史研究員 南 秀利）



慰霊碑

【問い合わせ】生涯学習課（内線 382）

M&Mマスタ

ソニックエステお試し
フルコース体験

5,500円 → **1,000円** (税別)

特別価格につき、1日限定3名、
1人1回限りのチャンス!

若返り!キレイになるぞ!
コース
フェイス12回分

22,000円 (税別)

※施術代別 1回毎に2,000円(税別)

時々やりたいコース
1回 **5,500円** (税別)

笠間市住吉1364 エステ受付時間
友部スクエア館内 10:00~18:00

☎0296-70-9139

はじめの住まいづくりを応援します!

県内建築会社 社以上 登録 **50**

中立・公平な「住まいづくり相談所」
複数の建築会社を比較できる!

初めての方でも参加しやすいセミナーを開催しています。
お気軽に下記店舗までお問い合わせください。

住まいのサポートセンター
すまいポート21 水戸

TEL: 029-224-0575 水戸市浜田1丁目18-21
10:00~19:00 (水曜日 定休)

こちらから